

みんなの夢の創造と実現のために……

星のゆめ

下松市観光協会
会報

VOL.20

編集・発行/下松市観光協会 発行責任者/弘中佑兒 Phone 0833-45-1841 URL/http://kankou.kudamatsu.info



下松駅南口に 観光看板完成

アメリカの金融破綻以来、我が国でも不景気風が吹きあられ、今年のクリスマス、忘年会等を楽しみにしている向には心配で酒も喉をとらない状況です。祭りや祝儀、不祝儀以外に庶民が酒を飲むようになったのは江戸時代、それも元禄の頃といわれ、それまではもっぱら公家、武士、僧侶、裕福な町人などの上流階級にとどまり、庶民はせいぜいドブロクの廻し飲み程度の事でした。公家の宴席は駆けつけ三杯といわれるように無理に酒を飲ませ、酔わせて人の性格、人間関係を調査するという宮廷を生き抜く手だての一つであり、その事から平安貴族はおしなべて皆大酒飲みになったようです。一方地方の武士たちは武士の誇りを大切にして適量の酒とどめ、かつしてくずれずれる事はありませんでした。その後、平清盛が実権を握ると公家と武士との酒席が頻繁になるにつれ武士が宮廷のならわしに染まり大酒飲みになり、やがて源氏にほろぼされる結果の一つになったと思われる。この冬は厳しい現実が待ち構えているようですが、酒にも不況にも飲み込まれないようにしたいものです。(A)



観光看板リニューアル

～駅南に新たな観光シンボル誕生～

昭和52年に設置した下松駅南口の観光看板が老朽化したことに伴い、この度、リニューアルし、その除幕式を先日11月15日（土）、下松市駅南市民交流センター「きらぼし館」前及び下松駅南口周辺において開催しました。

今回リニューアルした観光看板の横には、ふるさと納税第一号となる「ふるさとくだまつ頑張れ寄付金」により下松市が作製した「ものづくりのまちくだまつPR看板」が新たに設置され、観光看板と併せて除幕式が行われました。

当日は、駅南地区で開催される「駅前秋まつり」の日でもあり、除幕式は、秋まつりに来た人や関係者が集まる中、司会者の掛け声のもと、一斉にお披露目されました。

特に、新しい観光看板は、下松市を代表する行事や景観などをモチーフとしており、きつねの嫁入り、切戸川の桜、スポーツ公園のコスモス、米泉湖、はなぐり岩と夕日、笠戸大橋、長岡外史像、海上遊歩道の写真を組み合わせデザインとなっています。

また、観光看板の裏面は、瀬戸内海国立公園笠戸島のPR看板となっており、駅のホームからよく見えることから、下松を訪れた人の目を引くものと思います。

今後観光看板が、駅南口の新たなシンボルとなり、「ものづくりのまちくだまつPR看板」とともに末永く市民に愛される看板となることを願っています。



夏の夜空に輝く

笠戸島大城温泉花火大会

平成17年12月1日笠戸島大城温泉がオープンした日、オープン記念行事として冬の花火を打ち上げ、昨年平成19年より、古くから地元笠戸島深浦地区に伝わる十七夜管絃祭とタイアップして夏期に打ち上げられるようになった花火大会。歴史は浅いが、今やすっかり夏の笠戸島の風物詩となった感じがします。

国民宿舎大城から見下ろす落地区漁港の防波堤の先端に花火をセットし、港を囲むかのような大城岬から家族旅行村につながる高台からみる花火は、他の花火大会では得られない感動を見る者に与えてくれます。

幾重もの提灯を掲げ、雅楽の音を奏でながら落の港を訪れる幻想的な御神船を見送り、約1200発もの迫力ある花火を体験できるのは、平地の少ない急峻な地形であるとともに、古い歴史のある笠戸島ならではの花火大会と自負を持って、準備スタッフの一人として、毎回楽しみにしております。



深浦十七夜管絃祭は、旧暦の6月17日に深浦の西ヶ谷に祭られている巖島明神に、数隻の漁船が提灯をともして、明神様にお参りして湾内を一巡するお祭りです。安芸の宮島様と同様、大きい打瀬船に一艘ずつに70個の提灯をともし、月の昇りと同じ頃に船を出して、海の中に鳥居の立つ明神様にお参りする光景は、とても神秘的です。

平成20年度

年間行事

笠戸島イカダまつり

はなぐり海水浴場



8/31

おかげさまで20回大会

記念すべき20回大会は夏休み最後の日曜日を惜しむかのように絶好のイカダ日和に祝福され、過去最高の65艇を記録する参加数で、賑々しく笠戸島はなぐり浜で熱戦がくり広げられました。また記念イベントのファミリーレースも募集数20組で親子の絆を深め、生涯の良き思い出となりましたと大変喜ばれました。お陰さまで一人の怪我人もなく無事閉幕できました。関係各位及びボランティアスタッフご一同様に心より感謝します。

合掌 (K)

米泉湖音楽フェスタ

米泉湖 (末武川ダム)



9/23

切戸川桜桜フェスタ

下松市役所グリーンプラザ



4/1

ひらめ等魚介類供養祭

はなぐり中間緑地公園



10/10



5/3

笠戸島まつり

国民宿舎大城

稲穂祭(きつねの嫁入り)

法静寺~周防花岡駅



11/3



7/26

米泉湖サマージャンボリー

米泉湖 (末武川ダム)

第7回元気づくり くだまつ総踊り '08



【名称】“元気づくり”くだまつ総踊り'08

【日時】平成20年9月27日(土)15時~20時00分

【場所】中央町 下松タウンセンター(ザ・モール周南)中央広場周辺

【主催】下松市観光協会“元気づくり”くだまつ総踊り実行委員会

【後援】下松市、下松市教育委員会、下松市民憲章推進協議会

【協力】下松タウンセンター連絡協議会

オープニング

写真提供 江口雄司



YOSAKOI

よさこい





下松観光大使
「流星輝隊」

チームを結成して7年の月日が経ちました。現在は23名の仲間で踊らせて頂いております。年間に演舞する回数は20~30回(多い年は50回を超えたことも)ぐらいで下松市内はもちろん、遠くは宮崎・島根出雲と出かけています。

この「よさこい」を通して私たちは「仲間を信じること」と「ありがとうの感謝」を学びました。仲間を信じて踊り、そしてお祭りを創っている人・見に来てくれている人・チームを支えてくれている人・踊る仲間に感謝しながら演舞を終わる時、心の中に「ありがとう」が集まってきます。

自分の中に「ありがとう」がたくさん集まる事で、代わりに「ありがとう」が集まってくる。

「ありがとう」をたくさん知っている、「ありがとう」が胸いっぱいにつまっている、そんな仲間たちでこの星がうまったら世界は幸せになるでしょう。

それでは本日も演舞させていただきます!
流星輝隊、かまえっ! ソイヤー!!

■よさこい参加団体

降松星組/ブチクダ華陵連/天祈/よさこい華連
周南誠友会/光輝隊/TEAM紅/秋芳河童連
山口大学よさこいやっさん!!/天神雷舞/長州青組
錦よさこい連 螢/リズムックス/紅蝶連/流星輝隊
つわの風雅蒼涼/周防紅華連/くだまつ 松笑連
眞秀羅乃幻影/龍姫

■総踊り参加団体

(株)日立製作所笠戸事業所/東洋鋼鉄(株)下松工場
中国電力(株)下松発電所/(株)山口銀行下松支店
郷土おどり保存会/下松市フォークダンス連盟
来巻神舞保存会/下松市母子寡婦福祉連合会
山口県保育協会下松支部/下松市連合婦人会
下松市体育協会



MISORA HIBARI SHOW



美空ひばりショー



餅まき



員介 会紹

笠戸島特産品開発グループの活動

代表 守田 秀昭

私達のグループは、平成20年7月4日に結成し、プチ海の駅を同年12月、大城温泉オーブんと同時に開設しました。

会員は現在56名ですが、高齢化が進み当初の目的である、休耕田の再開発も思うように行かず現行維持が精一杯の状況です。



観光地笠戸島・大城温泉のPR等、一助の役割は担っていると自負しています。特産品としてのさつま芋や、新鮮な野菜・今朝採れた魚介類を毎月第一・第三日曜日に大城玄関前「プチ海の駅」で販売しています。売れ筋商品は、活き蛸・お魚と加工品（さつま芋ヒジキコロッケ・芋ヒジキの揚げ・海老天・蛸天・セト貝飯・ヒジキ飯等）新鮮な野菜・果物と加工品（奈良漬・沢庵・一夜漬け等）です。

近くて新しい穴場・大城温泉とプチ海の駅に来ていただき笠戸島の良さ、人情厚き人々と接してください。

員介 会紹

子々孫々に残る環境作りを

米川環境整備協議会

時の移り変わりと共に人々の暮らしと取り巻く環境は著しく変わってきました。山間の地域では、民家が消え荒廃した田や山林が草木に覆われ過去の営みを覆い隠そうとしています。時代の流れだと言って済まされることでしょうか？ 当協議会は、平成元年に発足現在の会員数48名です。当時は末武川ダム完成に伴う過疎化を危惧し、イベントの立ち上げや地域内の課題に取り組んできました。私たちは、今やるべきことは何かを考え、このまま放置するとダメになってしまふこと、長い時間を掛けて作り育てることの2つの観点から、鶴のねぐら、大將軍の整備・地域活動への協力とホテルの増殖・中瀬橋、瀬戸線沿いや滝の口河川公園を紅葉の名所にする

こと等の活動をしています。



▲鶴のねぐら整備（米川道谷）



▲ホタルの幼虫放流



▲米川中瀬橋付近の植樹の手入れ



「笠戸島の海は 市民の宝ものだ！」

孫たちが育ってくるうちに、楽しみの一つに夏は海水浴だ。近くには、光市の虹ヶ浜海水浴場という有名な素晴らしいビーチがあつて夜のライトアップ

プもあつて、この近くでは最高の海水浴場だ。しかし、わが市にも笠戸島には、かつて白浜海水浴場があつたが、今は鼻ぐり岬に、美しいビーチが出来て整備され市民の海として親しまれている。最近笠戸島への道路も改良完備されて身近になったものだ。特に今年は暑い夏だったので、毎日のように孫たちを連れて通った。シャワーなどの施設もりっぱで、監視体制もちゃんと

して安心して海を楽しむことで満足だ。ところが、小学生の孫たちには光の虹ヶ浜の方が良いという。何故か。日陰のある松原と小さなお店の存在だ。小さな浜のお店の経営には問題点は在るだろうが、観光協会が研究して欲しい！ 先日、オーストラリアのケアンズの旅に行つて、世界遺産のグレイトバリアリーフのグリーン島で泳いだ。本当に小さな島だった。島が小さいだけに気配りが進んで居

た。小さな浜にビーチパラソルと椅子やテーブルが並び、小さな店からアイスやジュース・ハンバーガーを買って食べながら海を楽しむことができた。小さな店を経営することは難しい問題はあるのだが、市民の海をもっと、子供たちが家族で楽しめる場になるように、自慢の海を取り戻そうではありませんか。車でわずか、10分の海水浴場です。わが市の自慢の浜をもっと我がものとして活かしたい！

編集後記

会報星のゆめも今回で20回をむかえました。県下でもあまり例のない観光協会の会報誌をここまで続けられた事を会報委員会一同大変喜んでるところです。しかし久しぶりに創刊号をめくっていると表紙を飾った藤田直美さんのイラストや初代委員長伊藤氏の随筆が妙に新鮮に感じられました。喜びより反省の方がさきでした。(A)